

塔時計

御殿場市立原里小学校

2012年 | 静岡県御殿場市



正面玄関：φ1,800 LED内部照明付
校舎塔屋：φ1,000 内部照明なし

富士山を望む小学校の新校舎に設置された真っ赤な大時計。校舎の正面玄関には直径1.8メートル、塔屋部には直径1メートルの時計があり、新しい校舎のシンボルとして注目を集めています。直径1.8メートルの時計は、夜間になると文字板が煌々と光ります。2つの時計は親時計からの信号を受けて動くため、いつも時刻はぴったり同じです。子ども達に正しい時刻を知らせるだけでなく、「地域の方々が時計を見ると同時に子ども達のことを見守ってほしい」、そんな願いも込められています。

塔時計

京都先端科学大学 京都太秦キャンパス

2020年 | 京都府京都市



φ3,000

工学部新設に伴い竣工した南館の壁面に設置された直径3メートルの塔時計。美しい中庭に面した新たな学び舎のシンボルとして、キャンパスを行き交う学生達に正確な時刻を知らせます。

塔時計

福井県立大学 永平寺キャンパス

2012年 | 福井県吉田郡永平寺町



φ3,580 LED内部照明付

創立20周年を記念して卒業生から寄贈された大時計。これまで4面に設置されていた校章のうち、1面を時計に改修しました。LED内部照明付で夜間は短針・長針とインデックスが光ります。

塔時計

三沢駅東口

2020年 | 青森県三沢市



φ1,600 寒冷地仕様

老朽化した駅舎の改修に伴い、既設の塔時計をリニューアル。積雪や凍結による時計停止を防止するためにテフロン加工の部品を使用し、指針や文字にフッ素樹脂塗装を施した寒冷地仕様です。

塔時計

門司港駅

2019年 | 福岡県北九州市



φ1,000 LED内部照明付

1914年（大正3年）に創建され、1988年（昭和63年）に鉄道駅として初めて重要文化財に指定された門司港駅。創建当時の姿に復原する工事が完了し、2019年3月グランドオープンしました。門司港駅のシンボルでもある大時計は創建後に取り付けられたものですが、九州初の電気時計という歴史的価値を尊重し、今回新調されました。新しい姿になった大時計が新たな令和の時代の幕開けを見守っています。

塔時計

東京駅 丸の内駅舎

2012年 | 東京都千代田区



φ1,442

1914年（大正13年）の開業当時の姿に復元された東京駅丸の内駅舎。南北2つのドームに設置された直径1.4mの塔時計の文字板も開業当時と同じローマ数字に戻りました。歴史と趣のある美しい東京の玄関口が、今日も多くの人々を温かく出迎えます。

塔時計

仙台駅 中央改札

2008年 | 宮城県仙台市



φ2,000

旧駅舎時代に待ち合わせの目印としても親しまれた直径2メートルの大時計。東北新幹線の建築工事と共に撤去された、かつての駅のシンボルが36年の時を経て復元されました。戦災復興の苦しさの中、故郷を離れる人々を温かく送り出した時計が再び懐かしい姿で時を告げはじめました。

塔時計

広島平和記念公園 平和の時計塔

2019年 | 広島県広島市



φ1,400 (3面) 球体・時計を新設／塔体は既設

広島平和記念公園内にある高さ20メートルの時計塔。ひねりが特徴的なデザインの鉄柱の上に、3方向に時計が付いた直径2メートルの球体が設置されています。この球体は世界人類を象徴し、3本の鉄柱があらゆる人々の深い祈りの手と苦難を超えて無限に伸びていく平和への希望によって支えられていることを表現しているそうです。そして、人類が初めて原爆被害に遭った時刻、午前8時15分になると平和への願いを込めたチャイムがヒロシマの街に鳴り響きます。この時計塔は、元々1967年に建てられたものですが、年月を重ね老朽化した球体の部分を新たに製作しました。

塔時計

三木市子午線塔時計台

2018年 | 兵庫県三木市



φ2,300 (4面)

兵庫県三木市を通る日本標準時子午線（東経135度）上に設置された時計台。「子午線（しごせん）の通るまち」として、市のPRや観光につなげてもらうことを願い、地元企業から寄贈されました。時計はどの方向からも見えるように4面に設置されています。夜間はライトアップされ、昼間とは一味違った趣きとなります。

塔時計

仙台一番町アクアビル

2022年 | 宮城県仙台市



φ1,100

仙台を代表する商業地域、一番町にある医療モール。ビルのリニューアルに合わせて設置された塔時計は、ローマ数字のインデックスと壁面の色合いにマッチするチャコールグレーの針が洗練されたデザインです。ビルのシンボルとしての役割も兼ね備えた直径1.1メートルの時計は離れた場所からも見やすく、来訪する患者さんやアーケードを行き交う人々に正しい時刻をお知らせします。

塔時計

アーク諏訪（駅前交流テラス「すわっチャオ」）

2019年 | 長野県諏訪市



φ2,000 LED内部照明付

JR上諏訪駅前の商業ビル「アーク諏訪」3階にオープンした諏訪市駅前交流テラス「すわっチャオ」。この場所を訪れる多世代の人々の交流の場となることが期待されています。建物の壁面に設置された塔時計は直径2メートル。白と黒のコントラストがモダンなデザインです。夜間になると時計の針と文字（棒）の部分が光り、上諏訪駅前のシンボルとして存在感が一層際立ちます。

塔時計

ウイステリア南1条ビル

2018年 | 北海道札幌市



φ2,500 LED内部照明付

地上12階建てのビル壁面に設置された直径2.5メートルの塔時計。株式会社メディカルシステムネットワークが運営する多目的ホール、クリニック、調剤薬局、コンビニエンスストア、保育園、サービス付き高齢者向け住宅などから構成される多用途施設のシンボリックな存在です。路面電車の停留所前に位置していることから、夜間でも時刻がはっきりわかるように針と文字はLED内部照明機能を備えています。

塔時計

PARTS CLUB本店

2018年 | 東京都台東区



ø1,300 指針・機械体・制御器のみ（枠・文字板はお客様にてご用意）

ビーズ・手作りアクセサリーパーツのお店「パーツクラブ」の旗艦店が浅草橋駅前にオープンしました。ビーズ街の象徴になるようにデザインされた時計とパーツのイラストが印象的な店頭の壁面。設置された時計をよく見ると、針はヤットコの形になっています。お客様の創作意欲とワクワク感を高めるようなオリジナルティ溢れる楽しいデザインです。

塔時計

東京ドームシティ MEETS PORT

2017年 | 東京都文京区



ø2,760 *文字板、数字の代わりのお皿はお客様にてご用意

東京ドームシティ内にある複合施設、MEETS PORT（ミーツポート）。2017年6月のリニューアルオープンに合わせて、正面入口にカラフルな大時計が設置されました。色とりどりの12枚のお皿と針の代わりとなる大きなフォークとナイフが時刻をお知らせします。食事やショッピングが楽しくなりそうな心躍るデザインの時計です。

塔時計

札幌大通西4ビル

2013年 | 北海道札幌市



φ2,620 LED内部照明付

石造り風の重厚な雰囲気のあるビルに相応しく、クラシカルなデザインに仕上げた塔時計。日が暮れるとガス灯をイメージした夜間照明の色に合わせて、時計の文字板も温かみのある電球色に点灯します。

塔時計

錦糸町オリナス

2006年 | 東京都墨田区



φ4,000 LED内部照明付

塔時計

キッザニア東京

2006年 | 東京都江東区



φ1,300 内部照明付

楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる「子どもが主役の街」、キッザニア。セイコーが協賛する「街時計」パビリオンでは、子どもたちが「からくり時計」のパフォーマーとなり、歌やダンスでみんなに「時」を知らせます。

塔時計

和光

1966年 | 東京都中央区



φ2,400

銀座のシンボルとして親しまれている銀座4丁目交差点の和光の時計塔。4面ある文字盤は、ほぼ正確に東西南北を向いており、塔の高さは9m、文字盤の直径は2.4m、長針の長さは1.17m、短針の長さは0.75mあります。毎正時（まいせいじ）の45秒前にウエストミンスター式チャイムが鳴りはじめ、その余韻の後に響く第1打が正時ちょうどをお知らせします。

塔時計

安城市体育館

2018年 | 愛知県安城市



φ2,000 (2面)

北側と西側の壁面に塔時計が2面設置された体育館。施設の大規模改修に伴い、親時計や制御器も新たにリニューアルしました。時計の針や文字（棒の部分）は既設を再利用しています。

塔時計

新宿区立子ども総合センター

2011年 | 東京都新宿区



φ1,550 LED内部照明付

新宿区初の総合的な子育て支援施設としてオープン。明るい暖色系のタイルを外壁と調和した時計塔は可憐な花びらの形を文字板デザインに取り入れ、来場者に親しみやすい印象を与えています。

塔時計

江戸東京博物館

2026年 | 東京都墨田区



φ1420 直立式塔時計(4面)

2026年3月31日、リニューアルオープンした東京都江戸東京博物館。

その中で、明治時代に東京のランドマークとして親しまれた服部時計店（初代時計塔）が原寸大模型として再現されています。

高さ約26メートルの時計塔は、現在の2代目時計塔SEIKO HOUSEと同様に、東京の「時」をつなぐ象徴でした。

現存する資料が少ない中、セイコータイムクリエーションが長年培ってきた経験と技術力で4面の時計塔を再現。

約100年の時を超えて現代によみがえりました。

文明開化の息吹を感じながら、歴史と都市の進化を体感できる空間となっています。

塔時計

明石市立天文科学館

1998年 | 兵庫県明石市



直径6.2メートル（長針3.2メートル、短針2.2メートル）

日本標準時子午線（東経135度）が通過する「子午線のまち」兵庫県明石市。明石市立天文科学館は、天体観測にもとづく天文経度によって導き出された日本標準時子午線上にある「時」と「宇宙」を展示する科学館です。日本標準時子午線の標識を兼ねた地上54メートルの展望塔の塔頂にある直径6.2メートルの大時計は常に正確な時刻を示し、明石のシンボルとして多くの人々に親しまれています。1960年の開館時に設置された初代、1978年に更新された2代目に続き、その後、阪神淡路大震災で被災を受けて、1998年に設置された現在の時計が3代目となります。外観の老朽化に伴い、2020年の「時の記念日1…